

平成26年度全国麦作共励会における九州農政局管内からの受賞者の紹介

【集団の部】

全国米麦改良協会会長賞 おしまえいのうくみあい **大島営農組合（熊本県上益城郡嘉島町）**

○ 集団の概要

大島営農組合は、6つの地区の生産組合と5つの機械利用組合で構成されており、平成18年に農作業の受託及び組合員の農業の共同化を通して組合員の効率的な農業経営の実現及び嘉島町大島地区における農用地の利用集積を図るとともに、地域農業の担い手として発展していくことを目的に設立されました。

現在、構成員は218名で、経営している水田292.4haには、水稻168ha、大豆117ha、小麦260haを作付けしており、小麦の作付については、県内でも最大級の規模である。米・小麦・大豆のブロックローテーションを実施することで、耕地利用率は170%以上を30年以上維持しています。

○ 技術面の特色

地区ごとに存在する機械利用組合の大型機械を使用した大規模経営に取り組ながらも、基本技術（適期播種・適期作業）の励行に努めており、省力化・低コスト化を意識した施肥設計への取組を行っている。特にミナミノカオリは、播種が遅れると収穫が梅雨期に入ることから、播種時期を11月15日～25日までに実施することを徹底しており、分けつ、穂数確保のために重要な麦踏みや中耕・土入れ等は、適期に作業を実施するため、あえて、個人農家が一斉に取り組む、3回から5回実施すること。また、分けつが少ない特性を克服するため、播種量を増やす、畦間を狭めるなどの工夫により収量増に繋がっている。

○ 収量・品質の改善

26年産の10a当たり収量は、ミナミノカオリで442kg（県平均334kg）、シロガネコムギで410kg（県平均334kg）と、両麦とも県平均単収を大幅に上回った水準を実現しています。

県普及指導員・農協営農指導員と共に技術指導を実施し、排水対策や中間管理作業等の技術の高位平準化を図るため、全構成員に栽培こよみを配布し、適期管理の徹底を行うことで収量と品質向上に努めている。過去に、各地区で大豆栽培でのブロックローテーションを成功させた経緯が、地域一体となった基本作業の励行や、組織全体での高品質な作物を生産する意識統一などに活かされている。

○ 労働時間・コスト削減

10a当たりの所要時間は約7.17時間（県平均7.61時間）であり、土地利用、作業の集積と合わせ、機械利用組合による一貫作業により省力化を図っている。労働時間中、麦踏、土入れについては、広域な圃場の管理作業を適期に行うため、個人農家が一斉に作業を行っていることから時間がやや多くなっているが、良質な麦の生産には欠くことができない重要なポイントとなっており、これにより組織の麦は高い品質と収量を確保している。

○ 今後の麦作への取り組み

今後、麦を含めた土地利用型作物の更なる振興を図るため、「くまもと土地利用型農業競争力強化支援事業」の低コストパイロット地区支援の地区に採択され、大島営農組合を含む6営農組合は、CE施設の枠を超えた広域農場設立の法人化に向けた合意形成に着手しており、ブロックローテーションの団地化や米・麦・大豆を組み合わせた水田の高度利用の広域化を目指している。

さらに、土地利用型農業を中心とした経営に、加工部門などを新設し、嘉島町農村女性グループによる麦・大豆の加工の試作品の調査研究並びに伝承料理教室の交流会の開催といったこれまでの活動実績を反映し、米・麦・大豆に付加価値をつけることも検討していく予定である。